

ベルギーの教育事情について

6歳から18歳までがベルギーの義務教育期間です。つまり小学校1年生から高校3年生までが義務教育で、高校を卒業すると成人(ベルギーは18歳から成人となります)となり、親から独立して生活をする人が多いようです。また、幼稚園から留年制度があり、18歳時に高校3年生になっていない子どももいます。高校3年生までが義務教育ではなく、18歳までが義務教育なので、18歳になった時点で学校を中退してもいいことになっています。

そして、ベルギーにいる全ての子どもたちが平等に教育を受けられるよう、教育費は無料です。公立・私立により額は変動しますが、義務教育期間の費用は、給食費や遠足代、プリント代などの実費を払うのみで済みます。ただし、これはベルギーの教育制度に準じた教育を実施している学校に対しての対応で、インターナショナルスクールや日本人学校は、対象とはなりませんので、教育費が発生します。

さらに、我々には驚きですが、学校に行かなくても家庭内で年齢相応の教育を受けていれば、問題はありません。ただし、教育機関からのチェックがあり、検定試験を受けて相当の学力を有していないと、大学には入学できません。

一部の学部を除き、大学の入試はありませんので、高校を卒業していれば、志望校の志望学部に入学できます。ただし、大学での試験で半数以上の点数を取らなければ留年し、同じ学部で2回留年すると、もうその学部には在籍できません。したがって、ベルギーの大学生は、アルバイトより勉強に重きを置いています。そして、国からでる養育手当も学生であれば25歳までもらえ、アルバイトで収入が一定額を越えと、この養育手当の対象から外れてしまうので、年間の労働時間の調節も大切です。とは言うものの、18歳になれば成人なので、親からの支援を最低限にしようと働きながら勉学を続ける学生も多くあります。

ところで、ベルギーの義務教育期間内のどこかで留年をする生徒が、全体生徒の50%もいると言う悲しい結果が出ています。教育レベルが低くなっている(ある高校教師の弁)にも関わらず、留年する生徒が半分いるとは、いかに勉強をしな

あちこちで、子どもが勉強しない、学力が低下したなどの話を耳にします。ベルギーと日本のいい部分を吸収して、楽しい学びの場を作ってあげると、子どもたちも楽しい海外生活を送れるはずですよ。

ご家庭でも、教育について話し合う機会を作ってみてください。

い生徒が多いかということですね。留年しても教育費は無料だから、大きな経済的問題にもならないと子どもが思ってしまうのでしょうか。そうだとすれば、悲しい現実です。

日本のように大学受験を目指して小・中学校から塾や家庭教師の下勉強し、大学ではアルバイトと旅行を楽しむのがいいのか、留年してでも勉強して大学を卒業するのがいいのか、迷ってしまいますね。

全ての子どもたちに教育を提供してくれるのであれば、快く受け入れて勉強する。でも、留年したらプラスαの費用が発生するので、学費を支払うべきではないでしょうか。そして、義務教育を年齢制限にするのではなく、学年制を採用して、高校を卒業させ、定職に就くよう指導する。そうすれば、学歴がなく仕事の見つからない若者の数が減るはずですよ。そして、義務教育機関に、学問だけでなく、社会生活も学ぶことを奨励する。これで、社会の落ちこぼれを減らせる

のではないのでしょうか。

授業もうわべだけをさらっと流すのではなく、実践を繰り返し、例えば指を使わずに計算ができる子どもを育てるべきです。ベルギーの子どもは、年々計算力が衰えていると聞きます。学校でも小学校から計算機を使って計算をさせるのですから、暗算ができないのも当然かもしれません。学ぶ科目が多いので、計算ばかりに時間は割けないと先生がサジを投げたら、計算のできない子どもが増える一方です。

その点、日本では、計算や漢字のテストを繰り返し行い、確実な力をつけて進級していきますね。しかし、記憶に頼る学習が多いので、自分の意見を発表する力に欠ける子どもが多いかもしれません。

両国のいい部分を吸収して、楽しく学んでいける環境作りをしていけば、今後の子どもたちはインターネットなどを使い、親以上に多くのことを学べるはずですよ。

ベルギーに滞在中は、日本語以外の言葉を多く聞く機会があるはずですよ。自分の殻に閉じこもらず、異文化を吸収して、自己啓蒙をして日本に帰国しましょう。我々スタッフも自己啓蒙家の皆さんを応援します。お互い情報を交換して、多くのことを学びましょう。

